



京都 在宅医療

検索

詳細は順次、京都医報、当センターホームページでご案内いたします。

京都在宅医療塾Ⅰ～探究編～

対象：医師・看護師

【ところ】京都府医師会館3階 310会議室

第2回「在宅看取りのための苦痛の緩和(仮)」

【とき】11月24日(日)10:00～12:00

【講師】早期緩和ケア大津秀一クリニック 院長 大津 秀一氏

第3回「栄養・摂食嚥下障害について(仮)」

【とき】2020年2月16日(日)10:00～13:00

【講師】東京ふれあい医療生活協同組合 副理事長 梶原診療所 所長 オレンジほっとクリニック 地域連携型認知症疾患医療センター長 平原 佐斗司氏

京都在宅医療塾Ⅱ～実践編～

対象：医師

※全回共通【ところ】京都府医師会館5階 京都府医療トレーニングセンター

【知っておきたい！褥瘡の治療とケア】

【とき】第2回 9月25日(水)14:30～16:30

【講師】小川皮フ科医院 院長 小川 純己氏

【知っておきたい！在宅での輸液スキル

—高齢者の肺炎・脱水時の対応について—

【とき】第3回 10月17日(木)18:00～20:00

【とき】第4回 11月20日(水)14:30～16:30

【講師】洛和会音羽病院 総合内科・リウマチ部門 部長 谷口 洋貴氏
まつだ在宅クリニック 院長 松田 かがみ氏

【知っておきたい！在宅医療での薬剤師との連携】

【とき】第5回 2020年2月19日(水)14:30～16:30

総合診療力向上講座

対象：医師

※全回共通【時間】14:30～16:30

【ところ】本会場：京都府医師会館3階 310会議室

※北部・南部会場はテレビ会議システムを利用した中継会場となります。

第3回「一般内科でもできる「めまい」の身体診察」

【とき】9月21日(土)

【ところ】北部会場：サンプラザ万助(福知山市)

南部会場：京田辺市商工会館 CIKビル

【講師】洛和会丸太町病院 救急・総合診療科 部長 上田 剛士氏

第4回「高齢者における身体所見のエッセンス」

【とき】10月19日(土)

【ところ】北部会場：サンプラザ万助(福知山市)

南部会場：京田辺市商工会館 CIKビル

【講師】市立福知山市民病院 研究研修センター長兼総合内科医長 川島 篤志氏

生活機能向上研修

対象：医師・多職種

食支援 Part

【とき】2020年1月11日(土)14:30～16:30

【ところ】京都府医師会館3階 310会議室

【講師】まんのう町国民健康保険造田歯科診療所 歯科医師 木村 年秀氏
歯科衛生士 丸岡 三紗氏

排泄支援 Part

【とき】2020年2月8日(土)14:30～17:30

【ところ】京都府医師会館2階 211、212、213会議室

【講師】調整中

認知症対応力向上多職種協働研修(アドバンス研修)

対象：医師・多職種

綴喜

【とき】9月28日(土)14:00～17:00

【ところ】Spa & Hote 水春 松井山手(京田辺市)

下京西部

【とき】11月9日(土)14:00～17:00

【ところ】京都府医師会館3階 310会議室

綾部・福知山

【とき】11月30日(土)14:00～17:00

【ところ】ホテルロイヤルヒル福知山

かかりつけ医認知症対応力向上研修(集合研修)

対象：医師、医療関係職種、介護職員等

北部会場

【とき】11月16日(土)14:00～17:30

【ところ】西駅交流センター(舞鶴市)

南部会場①

【とき】10月5日(土)14:00～17:30

【ところ】京都府医会館3階 310会議室

南部会場②

【とき】2020年1月25日(土)14:00～17:30

【ところ】京都府医会館3階 310会議室

南部会場①②は
同じ研修内容です

かかりつけ医認知症対応力向上地域連携研修

対象：医師、医療関係職種、介護職員等

伏見

【とき】12月7日(土)14:00～17:30

【ところ】伏見医師会館

認知症サポート医フォローアップ研修

対象：医師

北部会場

【とき】10月26日(土)14:00～17:00

【ところ】サンプラザ万助(福知山)

南部会場

【とき】2020年3月28日(土)16:30～19:30

【ところ】京都府医会館3階 310会議室

在宅医療に関する質問があればお問い合わせください。サポートセンターと保険医療課で連携し回答いたします。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階
tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

京都府医師会

在宅医療・地域包括ケア サポートセンター news

Vol. 31

2019年9月15日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news は奇数月15日の発行です。
※当センターホームページにてバックナンバーがお読みいただけます。

Main menu

- ◆ 令和元年度 第1回 京都在宅医療戦略会議詳細(P2)
- ◆ 令和元年度 第1回 総合診療力向上講座 開催報告(P2)
- ◆ 令和元年度 第1回 京都在宅医療塾Ⅱ～実践編～ 開催報告(P3)
- ◆ <在宅医療あれこれ…>(P3)
- ◆ 令和元年度 研修会予定のご案内(P4)

令和元年度 第1回 京都在宅医療塾Ⅰ～探究編～ 開催報告



7月28日(日)、京都府医師会館にて「在宅医療の現場で
出会いがちな【せん妄】」と題し、京都府医師会 認知症
担当理事、医療法人同仁会(社団)介護事業部 統括医師、
京都九条病院 精神科・心療内科 西村 幸秀氏にご講演
いただき、医師78名、看護師43名の方が受講されました。

◀京都府医師会 認知症担当理事、医療法人同仁
会(社団)介護事業部 統括医師、京都九条病院
精神科・心療内科 西村 幸秀氏

● 講師：西村先生よりメッセージ ●

7月28日、「在宅医療の現場で出会いがちな せん妄」と題して、基本講義、グループ
ディスカッション+ミニレクチャー(①&②)、合計3時間の時間枠で開催しました。

基本講義では、「せん妄」に対してのイメージを共有し、在宅での事例を通して、
認知症・せん妄(過活動型と低活動型)・うつ・アパシー・向精神薬処方への適正使用・
睡眠薬の使い分け・切り替えなどについて、知識を再確認しました。

グループディスカッションでは在宅での事例を提示し、主治医または訪問看護
師としての立場でのグループワークと全体化をおこないました。ミニレクチャーで
は診断・鑑別・対応を多方面から検討し、補足しました。

事例①「失禁・もの忘れ・夜中の大声」では、可逆性の認知症・アルコール依存・
離脱せん妄・正常圧水頭症について考察を加えました。事例②「のどが渇き、痒くて
眠れない」では、向精神薬の副作用・多飲・脱水と経口補水療法・皮膚疾患につ
いて考察を加えました。

ミニレクチャーでは、「医療介護関係者～本人・家族」および「主治医と多職種」
でのコミュニケーションにおいて、「アサーション」と「Shared Decision Making」に
ついて解説いたしました。また在宅の現場でも陥りがちな悪循環について、アセス
メントの重要性と、多職種間での情報共有の工夫について、参加者からの質疑応答
も活発に行われました。



全体の様子



グループワークの様子

● 受講者の声 ●

(受講後アンケートより抜粋)

- 久しぶりのグループワーク、色々な
考え方ががあると再認識できまし
た。西村先生のレクチャーも楽し
く中身が濃いものでした。(医師)
- 先生方の考え方など、色々お話
が聞けたので、今後そういうこと
の可能性などが分かってよかつ
たと思います。医師の立場、看護
師の立場での考え方がきけてよ
かったです。(看護師)

令和元年度 第1回 京都在宅医療戦略会議 報告

6月29日(土)に京都府医師会館にて、第1回京都在宅医療戦略会議を開催しました。

前号に引き続き会議内容をご紹介します。

◇ 議 題

1. 「京都府介護支援専門員会における在宅医療との連携について」

京都府介護支援専門員会 会長 井上 基 氏

ケアマネジャー(以下、CM)は、「介護保険制度や地域包括ケアの要」「医療と介護、病院と地域の連携の要」の役割を担い、現在では地域医療構想調整会議にも出席している一方で、「福祉・介護を基礎資格とするCM」の増加により、医療と介護、病院と地域の連携についての役割を果たせていないとの指摘もある現状を説明され、批判は受け止めつつもCMが重要な役割を果たす必要があることに変わりはなく、CMの質向上に京都府介護支援専門員会(以下、CM会)として取り組む姿勢を示されました。

CMの業務は、「利用者の状況を総合的に把握した上で、そのニーズに応じるために、各種のサービスが総合的・一体的・効率的に提供されるように調整を行うこと」であり、サービスの調整を行うコーディネーターとして、これらを実行するためにケアプランを作成し支援を行っているとした上で、法令上努力義務として「介護給付対象サービス以外の多岐にわたるサービス等の利用も含めて居宅サービス計画に位置付けるよう努めなければならない」と定められていることが特徴であり、この努力義務により、利用者からは介護保険サービス以外のことも求められることが多く、現状グレーゾーンのシャドウワーク(どの職種の役割でもない制度の狭間にある業務)についてもCMが対応している実状を紹介されました。

また、現場ではCMが医師と連絡を取ることに困難を感じていることを説明され、CM会と府医が協力し、ケアマネタイムリストや医師とCMを繋ぐFAX連絡票を作成し、活用を広げていること、さらにCMが医師にファーストコンタクトをとるための「私がケアマネジャーです」といった連絡票も準備していると紹介されました。

その上で、ケアマネジメントの質の向上のためは、医師との連携が必要であるとして、主治医がサービス担当者会議に参加することや、主治医からCMへの医療情報の提供や相談に応じていただくよう協力を呼びかけました。

2018年度の診療報酬・介護報酬改定において、退院カンファレンス

が手厚く評価されましたが、加算ありきで開催するのではなく、CM会では、京都モデルとして退院時カンファレンスの開催について強化して広めたいとの意向を示されました。

さらに、在宅療養あんしん病院登録システムや京あんしんネットの活用推進などの事業でもCMの役割の幅が広がっており、CM会では各研修会を開催し、在宅医療を推進するために必要な人材育成に取り組んでいることも紹介されました。

最後に、CM会には1700名の会員がいるが、各地域での顔の見える関係作りが最も大切であり、各地域でCMの役割を理解してもらうための場があれば積極的に参加していきたいとの意気込みを示され、関係各位への協力を求められました。

2. 「在宅生活での多職種連携」

京都府介護福祉士会 松尾 千佳子 氏

まず、京都府介護福祉士会について、「暮らしを支える最も身近な介護の専門職」として、利用者のニーズに応えられるように専門的な知識・技術の向上を会員相互のコミュニティを通じて図り、豊かな社会を目指していく会であると紹介されました。

介護職は、療養者の日常生活全般の補助・介助を行うが、看護師の人材不足、ニーズの拡大等を受けて、研修を修了した介護職も喀痰吸引が可能となったことから、医療と介護の連携が重要になるとの意見を述べられ、在宅での医療・介護連携にまつわる事例を紹介されました。

また、自身の所属する事業所での経験をもとに、CMへは「病名など、医療的なことでも分かることは知らせてほしい」、訪問看護師へは「指示の統一、医師へは介護職の意見を少しでも聞いてほしい」、との要望を提示されました。最後に、医師・看護師は多忙のため相談が出来ない利用者も多く、介護職には本音を話すこともあり、利用者のニーズに答えるためにも医療・介護の連携強化への協力を呼びかけられました。

その他、「令和元年度 地区医師会在宅医療推進事業」について、地区医より事業内容の紹介、「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン」について府医・西村理事より説明がありました。

その後、地区医師会からの在宅医療に関連した質問と参加団体も交えた意見交換がおこなわれました。

令和元年度 第1回 京都在宅医療塾Ⅱ～実践編～ 開催報告

7月25日(木)、京都府医師会館にて、「知っておきたい! 褥瘡の治療とケア～できてますか? 貼付剤と軟膏の使い分け～」と題し、小川皮フ科医院 院長 小川 純己氏、まつだ在宅クリニック 院長・松田 かがみ氏、皮膚・排泄ケア認定看護師・大城 繭子氏の3名にご講演いただき、44名の医師が受講されました。基礎講義後は、訪問看護認定看護師がファシリテーターとなり、褥瘡モデルを使用した洗浄・軟膏塗布そして保護など褥瘡のケアについて実習を行いました。



褥瘡モデルを使用した実習

本研修会は、同じ内容で9月25日(水)14:30～16:30でも開催いたします。詳細は当センターホームページ、または京都医報をご覧ください。

● 受講者の声 ● (受講後アンケートより抜粋)

- 皮膚周辺の洗浄方法やワセリンの使い方初めて知って大変勉強になりました。
- 実践的な内容が多く、明日から使えそうな知識でためになりました。実習もよかったです。
- 対応・処置する具体的な薬剤・製品名を挙げて頂き、具体的な使い分けを教えていただけよかったです。



小川皮フ科医院
院長
小川 純己氏



まつだ在宅クリニック
院長
松田 かがみ氏



皮膚・排泄ケア
認定看護師
大城 繭子氏

在宅医療あれこれ

— vol.9 —

在宅医療ことはじめ、もしくは悪循環



辻輝之氏

中京東部医師会
地域包括ケア担当理事

中京東部医師会で地域包括ケア担当理事をしている辻輝之と申します。

私は、中京およびその周辺を主に自転車で回ります。早川先生の「西陣の路地は病院の廊下や」の言葉のように、もう少し狭い地域を丁寧にみるのが在宅医だと思うのですが、専門とする神経難病はもう少し広い地域に広がって要請があり、「廊下」を自転車で走るという無粋なことになっています。それにしても、この町になんたらーじ(路地)の多いこと。CMや包括から地図を渡されても、しばしば、見過ごし、行き過ぎ、右往左往します。この前はここにあったはずという妙な錯覚もしくは地誌的失認を楽しみながらの毎日です。そこに見る生活は、これはもう、「病院の廊下」といった医療のデリバリーにとどまらず、ほとんどフィールドワークをしているかのような錯覚をおぼえます。でも、考えてみれば、病院の廊下も医療のやり取りのためだけにあるわけではなく、

そこをって看護がとどけられ、介護、時に福祉も顔を見せます。医者もまた患者さん家族の思いやその生活を念頭にその病室のドアを開けるのが本来の姿なのだと思ひます。早川先生はおっしゃったのだと思います。念頭とはつまり情報に他なりません。しかしそれにしても、そこに交わされ飛び交う情報の膨大なこと。このままでは、情報の海に溺れてしまって、本来の医療を見失うという危機感、あるいはそこに新たな医療像が見えるかもしれないという期待感が、現場を見ること、そこから見えることを地域に活かすことにのめりこんでいく、ある種の悪循環を生み出します。医師会の先生方に、お一人でも多くのこの悪循環の醍醐味を味わっていただければ、この春から法人化した中京区在宅医療センターは、医療介護福祉地域をつなぐ中心として、在宅医療のハードルを下げ、多職種の皆さんとフラットな関係を継続発展させてゆくお手伝いをしていきます。

令和元年度 第1回 総合診療力向上講座 開催報告

7月20日(土)、京都府医師会館にて「めくらまし(Red Herring)を乗り越えていこう!」と題し、洛和会音羽病院 総合内科・リウマチ部門 部長 谷口 洋貴氏にご講演いただき、136名の医師が受講されました。



洛和会音羽病院
総合内科・リウマチ部門
部長 谷口 洋貴氏



本会場



北部会場



南部会場

● 受講者の声 ● (受講後アンケートより抜粋)

- 非常に、日常の臨床におけるピットフォールの様なところを、鋭くついでおられ、大変良かった。
- 大変勉強になりました。外来で見落としがないうちが注意したいと思えます。
- 実臨床に活かせる形式でのレクチャーで良かったです。
- 広く知識を持つことが必要で、そのためには日々研修が必要と実感。